



有松まちづくりの会役員会 (10月29日)

10月26日27日、中濱会長はじめ3名が参加された第47回全国町並みゼミ東京大会の報告がありました。「全国町並み連盟50周年記念トーク」が企画され、創立団体である有松まちづくりの会、妻籠を愛する会、今井町町並み保存会が登壇し、活動の様子や今後の課題などについて発表。また、26日開催の区民まつりでは、重伝建パネル展示や絞り体験で有松のPRをしました。

東海TV おぎやはぎテラス

有松山車まつり 生中継 (10月6日)

強い日差しの中、おぎやはぎさんのお二人が山車まつりで賑わう有松にやってきました。地元の方と一緒に楽しむ番組として、「ローカルコメンテーター」役でないびとの会の六鹿晴美さん(写真右端)が登場。事前撮影された映像を交えながら有松のまちや絞り、グルメを紹介していました。

生放送の12時～13時は、山車まつりで一番の見どころ「からくり実演」が絞会館駐車場で行われていたため、ほど近い撮影場所の東町山車庫近くは黒山の人だかり。

番組は六鹿さん出題のクイズとお店紹介が主な内容でした。直射日光を浴びながらの過酷な現場でしたが、笑顔を絶やさない姿が印象的でした。紹介されたお店は以下の4店。



SUZUSAN(スズサン)



味福



緑と風のダーシェンカ蔵 有松店



BRUN'Z



第16回 いけばなスペース花展

(10月5日・6日) 棚橋家住宅



名鉄リアル謎解きゲーム レールの先の景色2024 (4月24日～11月4日)

秋の訪れとともに謎解きに有松を訪れる人が再び増えてきました。特に、中濱商店前の説明板(写真)を食い入るように読んでいる人が目に留まります。向かいの日陰では謎解きに忙しいようで、3人5人と人だかりがよく見られました。

例年大祭前の準備として、3週間前の日曜日には天満社境内と周辺の道掃除が行われた。10日前になると囃子の稽古が始まり、町中に練習の音色が響く。山車まつりを楽しみにしているのが伝わってくる。

▶ 清掃活動（9月15日）

心配された天気でしたが、9時には雨も上がり各町内の組長さんや文嶺講の総代さん約40人程が各箇所に分かれて行われた。蒸し暑さの中、参道を掃き清めている方や上の広場・下の広場で草取りに余念のない方など、分担を熱心に果たされていた。

改めて天満社の祭礼が地域の方々に支えられていることに気づかされた。



↑ 下の広場:天王社前
→ 左:参道 右:一の鳥居



▶ 囃子の稽古（9月25日～10月4日）

各町とも祭礼前夜祭に先立つ10日間はお囃子の稽古日である。お囃子やからくり人形の稽古、衣装合わせ、山車の準備作業が行われる。その間、文嶺講総代長、副総代長、総代らが各年行司を訪問するのであるが、初日に同行させていただいた。西村総代長以下5名がご祝儀・日本酒を持参して激励に回っていた。順番は決まっていて、東町、中町、西町。その折見学した各町の稽古風景を簡単に紹介したい。

《東町》 午後7時に山車会館に集まり稽古開始。1階和室の練習台にざい振り人形が置かれ、10数人が稽古に励んでいた。小学生が2人(3年生と5年生)、若い女性も。「これも時代の流れ」と関係者の声。お囃子に合わせ、人形方の練習も真剣に行われていた。

東町では山車のメンテナンスも・・・「山車を長持ちさせるのに欠かせない」とのこと。



囃子の稽古(東町)



《中町》 午後7時半練習開始。他の町に比べ子供が多い。年長さんから小学5年生まで5人。彼らの前に年配の方が座り小太鼓の叩き方を教えていた。雑誌を重ねて小太鼓の代用とするなど工夫して・・・付き添いのお母さんに参加のきっかけを伺うと「提灯に彩られた夜の山車曳きに興味を持って」とのこと。



囃子の稽古(中町)



布袋車の点検修理

《西町》 伺ったときは、練習に先立ちからくり人形の衣装着けが行われていた。他の町に比べ年行司が大変狭く大変そうでした。傍らでは小太鼓の準備を子供たちがしていた。のち揃っての囃子の稽古が始まった。

練習時間や内容は町ごとそれぞれで決めるとか。訪問した25日は稽古初日。どの町でも、稽古終了後は子供たちも交えて飲食がされるという。地域の方との触れ合いがこの祭の一番の魅力であるようだ。



準備風景(西町)

▶ 前夜祭（10月5日）

笹竹迎え 祭礼前日は忙しい。朝に梵天の竹を切りに行く。梵天は各年行司に立てるのだが、合わせて文嶺講が梵天迎えに使う竹や囃子込みで使うものも用意する。

細根山の竹林から切り出す。明治以降タケノコを取るために植えられたとのこと。マダケを用いる。先端部だけを残し、下枝はすべて落としてある。各年行司の屋根よりも高くするため11～13mはある。

梵天立て 年行司前の穴に竹を差し込み、根元に稲わらをかぶせて化粧する。やり方と仕上がりは町により違う。並行して幔幕や注連縄が張られる。

梵天迎え 夕方、総代長等文嶺講役員10名程が提灯を手に中町年行司から天満社向かう。枝葉を落とした青竹の先に行灯と杉の葉を取り付けた梵天を持って…拝殿で祝詞奏上の後、先端を御幣に取り換える。

神事が終わった後、天満社を下り旧東海道に出て一旦西に向かう。一里塚付近で路上を3回廻り、東の松原の秋葉社に向かう。そこでも3回廻り、祭礼本部の中町年行司に戻る。

囃子込み 前夜祭の一番の楽しみである。梵天迎えと前後して中町と東町は6時、西町は6時半に各年行司を出発。2時間半から3時間かけて翌日の祭りを告げる。。

前夜祭の囃子込みが行われるようになったのは、25年程前かららしい。旧東海道沿い以外では山車はなく、曳かれることはない。有松の祭は東海道の祭と思っている人は少なくない。もっと皆に参加してほしいとの願いで、山車が曳かれるより広い範囲を廻るようになった。同行させていただくと、地域の皆さんの熱い思いが伝わってきた。囃子込みを見学したり行列について行ったりする人も少なくない。



中町の作業風景と梵天



東町の作業風景と梵天



西町の梵天



天満社下の広場で



天満社拝殿で



左:西町/右上:中町/右下:東町



山車まつりサポーターの皆さん あいがとうございました

秋季大祭は多くの方のお力で成り立っています。有松天満社文嶺講の皆さん・各町の山車関係者はもちろん、有松・東丘・太子の各消防団の皆さんや、近隣の学生さん達のサポートも…

名古屋情報専門学校105人、桜花学園大学15人、名古屋市立東陵中学校（芸術文化探求部）10数人に加え、今年は名東高校からも3名の参加がありました。授業の一環で有松調査に。天狗さんを紹介してくださいました。

また、情報専門学校の皆さんに特に一言。早朝から深夜まで、側溝での事故防止に多大な協力をいただきました。声掛けはもちろん、あいさつされる姿が実に清々しかったです。



▶ **本祭・昼の部** コロナ禍や悪天候のため5年ぶりの本格開催。山車関係者はじめ祭りに参加された皆さんの顔には「嬉しさ」の表情が浮かんでいました。出立ちの儀から天満社総入りまで約5.5時間の神事。

出立ちの儀 9:30祭礼本部(中町年行司)前で西村総代長の挨拶を受け祭り開始。その後、文嶺講の総代長・副総代長は梵天を先頭に西に向かう。一里塚付近の路上を左回りに3周する。

山車曳行 切り通し前から総代長一行に続き西町の神功皇后車が出発する。中町年行司を通過すると中町の唐子車が列に加わる。東町の山車布袋車はあらかじめ分かれ道(郵便局から大府へ向かう道)に移動されており、郵便局横で布袋車は最後尾に加わる。

山車の曳き綱は2本に分かれ、町内の人ばかりでなく誰でも曳くことができる。数十mが多くの人の手で埋まる。小さな子供連れの親子の参加が少ない。また、沿道で山車見物をしている人の多くはわが町の山車について歩いている。

車切り(しゃぎり) 10:40頃西の端を出発した行列は東の端の松の根橋に到着。3輦の山車は順に人形からくりを披露し、祭り最大の見せ場車切りを行う。

車切りは山車を回して向きを変える事であるが、有松では前輪を持ち上げて行う。

観客が多く集まり、楯方の腕の見せ所になっている。山車毎回転数ややり方に特徴がある。

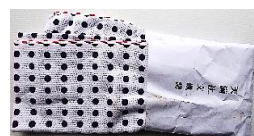
人形からくりの披露

12:10校会館駐車場に3輦の山車が並ぶ。各町15分の実演で、演技終了後観客に手拭いが投げられる。演技に先立ち、山車毎に解説もある。

すれ違い 13:30中町交差点での車切りの後、西の端で方向転換。狭い東海道での山車同士のすれ違いは圧巻。順次からくりを奉納し、切通しに到着。山車は3輦ともここに留め置かれる。



総参り 14:20頃に参道を進み石段を昇り上の広場に到着。先頭に笹竹、小太鼓。綱を延ばして山車関係者が一緒に3周する。後、梵天は拝殿に運ばれ神事は終了。



昼のにぎわい

有松あないびとの会 有松町並みツアー

日本遺産のまちについても知りたいと、30数名の方が参加されました。希望者があるとその都度出発。少人数での案内ということもあり、約1時間のツアーを堪能していました。車切りやかからくり披露の案内が中心でした。



▶ 本祭 夜の部

観客の中から嬉しい声が耳に届いた。「提灯に彩られた山車、この辺りでは最高だよ」家族に語り掛けているようです。少しずつ夜の部の素晴らしさが広まってきている。昨年の2倍以上の人出かもしれない。

夜の囃子込み 本来の運行スケジュールで実施された。

18:00郵便局前を出発。すでに西の祇園寺前に3輦の山車は集まり、提灯に彩られている。総代長・副総代長を先頭に東町の楯方・囃子方が続く。梵天は持たない。中川橋跡では中町が待ち受ける。さらに竹田嘉兵衛商店あたりで西町が合流。祇園寺に着くと囃子方・人形方が山車に乗り込む。

夜の山車曳行 18:30東に向かって出発。絞会館前で布袋車と唐子車だけが人形からくりの演技を披露する。演技の後、手拭いが投げられた。松の根橋で1輦毎車切りを行う。

昼の部と違い、山車の移動に観客の多くは着いていく。

分かれの儀 松の根橋から西へ戻る途中、2輦ずつ町境で行われる。絞会館では西町と東町が、中川橋跡では東町と中町が、竹田嘉兵衛商店前では中町と西町がそれぞれ行った。2つの町が向かい合って立ち、総代長が挨拶をして一本締めをする。それぞれの年行司に向かい、提灯などを取り外し、山車は山車庫に入る。21:00

総納め 21:30それぞれの山車が山車庫に入り片付けをすますと、祭礼本部で行われる。朝の出立ちの儀と顔ぶれは同じ。後、梵天は倒され終了。



夜のにぎわい



文嶺講コーナー



有松で「ギターの日」(9月29日) 於: 六弦とコットン

写真家の岡崎リョウタ氏(左)が友人の服部純雄氏とギターの演奏会を行った。3時間の演奏とおしゃべりです。生演奏のBGMといったところ。食事やお喋りで3つのテーブルは満席。岡崎氏は以前から有松に足繫く通い、出版した写真集に有松を舞台にしたものもある。「重厚な建物は季節感が出しづらい」とプロの目。「今月で慣れ親しんだカフェスペースが閉じられるので企画した」とのこと。



連載 有松にお店を構えて ⑥ ARIMATSU café space 六弦とコットン

東町に賑わいをもたらしたお店の一つ。店内から見える井桁屋がいい。

▶ どうして有松にお店を構えることにしたのですか？

大学時代に映像や舞台パフォーマンスについて学び、様々な作品に触れてきたことと自分自身も制作を行ってきた経験から、ものづくりの町である有松に表現や創作をする人々が集える場を作りたいと思ったのがきっかけです。私自身生まれ育った町にこんな場所があればいいなとずっと思っていました。

▶ これまでのご苦労や喜びは？

2022年の春にオープンしてから、苦労と喜びが表裏一体の日々でした。2024年9月末まで営業していたカフェでは沢山の地元の方や有松へ訪れる方に憩いの場として過ごしていただきました。いまや顔馴染みとなったお客様と出会えたり、そこからお客様同士でも新たなご縁が生まれたり。ギャラリースペースとしてはこの場所だからこそ気軽に展示会やイベントにお越しくださる方も多く、そんな方々と作家さんの橋渡しを出来る時が特に嬉しいです。

▶ これからのこと、こんな町になって欲しいという願いは？

無責任な立場からの願いですが、伝統工芸である有松絞りがより多様な形の表現に発展していくと面白いだろうなあ…大切に受け継がれてきた伝統が次世代の目に新鮮に美しく映る町であってほしいと思います。

ギャラリースペースのみ

六弦とコットン 営業時間 11:00~17:00 土日(祝)営業
催事・行事予定

~11月30日 豊田信行切り絵展 有松郵便局

11月2日(土) あいちのたてもの博覧会 建物公開日

棚橋家住宅・中濱家住宅・岡家住宅

11月4日(月) 10:00 有松絞親子体験教室2024 久野染工場

コンソーシアム有松

11月18日(月) 18:00 有松町並み相談会 有松コミセン

11月23日(土祝)・24日(日) 10:00 有松コミセンまつり コミセン

11月24日(日) 7:30 かえで道清掃

11月25日(月) 18:30 有松まちづくりの会役員会 コミセン

発行者 中濱 豊(有松まちづくりの会 会長)

編集者 加藤明美(有松まちづくりの会 広報部長)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp 取材・撮影 伊藤総俊

有松まちづくりの会はホームページを公開しています。「有松のまち」で検索。



思い出のカフェスペース

㊥ 桝屋の賑わい㊦ トボス有松

映像ソフトや子供絵本(古本)のお店。4年ほど前に開店。来店者とご主人がよく話し込んでいる。映画談義に盛り上がる。

多様な品揃え、気さくなお人柄で、居心地がいいのだろう。絵本は古書専門店で吟味して仕入れているとのこと。こだわりのお店である。



《編集後記》

今月は山車まつりの特集です。祭りは有松そのもの。有松が培ってきた文化を余すことなく伝えていきます。5年ぶりの本来の進行に関係者皆大満足でした。

まちの活性化に益するところ大では？